



Keiyukai NEWS

吉田病院の床頭台について

2023年9月に、一部の床頭台が新しくなりました！
床頭台とは、病室内のベッドサイドに置かれている、患者様の私物を収納する台のことです。新しく設置した床頭台は、TV・冷蔵庫・セーフティーボックスが付属されているだけでなく、以前のものより引き出しの収納が増えたほか、ハンガーで衣類をかける場所が設けられ、さらに使いやすくなりました！

床頭台をリニューアルしたことが、患者様がより快適にお過ごしいただける環境の提供に繋がれば幸いです。



すこやか

KEIYUKAI NEWSLETTER

2024.1
vol. 82
free paper

ご自由にお持ちください



診療科目

- ・一般内科
- ・消化器内科
- ・呼吸器内科
- ・循環器内科
- ・腎臓内科
- ・内分泌内科
- ・緩和ケア内科
- ・外科
- ・整形外科
- ・泌尿器科
- ・放射線科
- ・リハビリテーション科
- ・歯科・歯科口腔外科
- ・肝臓病センター
- ・内視鏡センター

併設センター

- ・糖尿病・生活習慣病センター
- ・人工腎臓センター
- ・化学療法・治療センター
- ・予防医療センター
- ・在宅医療福祉センター
- ・緩和ケアセンター
- ・肝臓病センター
- ・内視鏡センター

グループ施設

- ・老人保健施設 さくら館
- ・特別養護老人ホーム 養生の杜カムイ
- ・デイサービスセンター ほたる
- ・グループホーム K館
- ・グループホーム アテナ
- ・特別養護老人ホーム 仁慈苑
- ・デイサービスセンター 透空



医療法人社団 慶友会
吉田病院



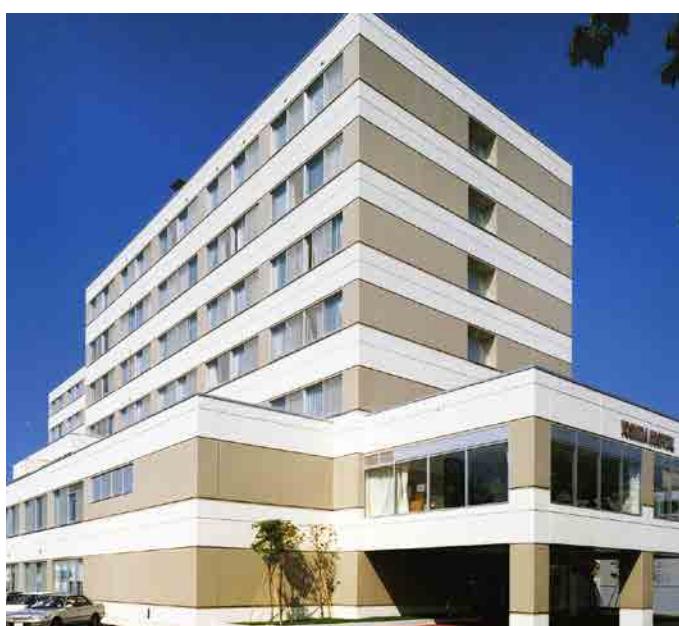
■診療受付時間

- 【平 日】 午前 8:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
 【土曜日】 土曜 8:00 ~ 12:30
 【休診日】 日曜日、祝日、年末年始

〒070-0054 旭川市4条西4丁目1-2

0166-25-1115

<https://www.keiyukai-group.com/yoshi-hp/>



医療法人社団 慶友会 吉田病院
YOSHIDA HOSPITAL



医療法人社団慶友会
社会福祉法人慶友会
理事長
吉田 良子

2024年新年のご挨拶

皆さま、明けましておめでとうございます。今年は、地域医療で求められる「内科に強い病院」になることを目指していきたいと考えております。特に今年度からは、専門領域である「がん」の早期診断、早期治療を強化することで、緩和、在宅医療など、医療の質が向上していくものと考えられます。また、わが国における少子高齢化、医療制度の変化を踏まえ内科に強い病院であると同時に、シームレスな医療サービスを提供すべく、高齢

者をしっかりと支えることができる慶友会でありたいと考えます。今年から是非とも力を注ぎたいことを申し上げます。それは、地域の皆さまが、慶友会グループの扉を開けた瞬間に、言葉だけではない以心伝心ともいえる信頼感、そして安堵（ホッと）する空間と安心感、このような気持ちが自然に湧き上がってくる、そのような医療サービスを提供できるよう努力していきたいと考えております。

最後に、皆様へお伝えしたいメッセージがあります。「穏やかな励ましや穏やかな心・気持ち」で患者様へ接してもらいたい、そして退院される際には「生き生きと元気になって日常の生活」に戻って頂きたい。この言葉が今年の皆様との合言葉になりますように。そのような慶友会グループを創り上げていきたいと考えております。

今年は、辰年です。「困難を克服し成功を収める」龍門飛躍の年にていきましょう。

今年もよろしくお願い申し上げます。



理事
吉田 琢哉

不易流行

数年前、医療を取り巻く環境の変化から慶友会の方向性について書きました。前理事長であった父の文章を見返しても同じようにその時にある社会課題を見据えた上で、組織のあるべき姿を書いていました。考えてみると事象は違えても、国や業界を問わず社会活動をする上で変化はついて回るもので、「未曾有の」や「これまで経験したことのない」といったことはこれからも永劫私たちの前に起こります。昨今の日本では暗い影を落とすも

のが目につきますが、見方や捉え方によってはそれが大きな好機を生み出することもあります。既存にとらわれず様々なことに挑戦し、失敗はそれを糧として新しく芽吹くものを育てていく姿勢は組織の活性化につながります。同時に慶友会は「医療の質の向上」と「経営の健全化」を両輪として生活者が安心して暮らせる社会（安心圏の構築）を目指しています。これは私たちの基軸であり、上記の変化によって左右されるものではない指針です。医療の質の向上は医療職が上下関係なく一味同心となって患者に真摯に向き合うことが最も重要で、私たちの言葉では「心ある医療」です。経営の健全化については新しいことに挑戦するために必要な投資を積極的に行い、明日の慶友会を創造していきます。

時勢への適切な対応と基軸となる指針を照らし合わせながら、保健・医療・福祉の先導者を目指して邁進していきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



プリンシパル・ドクター
大崎 能伸

2024年に向けて

新年明けましておめでとうございます。2024年が皆様にとって良い年になりますようにお祈りいたします。2023年は2022年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。新型コロナウイルス感染症は以前から予想していた通り、多くの感染者を生み社会の重い負担となつたのちに、危険な上気道感染症として定着する様相を見せています。2024年はインフルエンザと共に存すると思われ、注意深い診療が要求されることと思います。

明るい話題もありました。2023年は38年ぶりに阪神タイガ

スが、激闘の7戦に及んだ日本シリーズを制して世界の人々に大きな感動をもたらしました。1985年の日本シリーズは、私は道北病院に勤務していましたが、吉田監督が広岡監督の西武を破って日本一を勝ち取りました。その後、2003年に星野監督、2005年には岡田監督がセリーグを制しましたが、2003年は王監督のダイエー、2005年はバレンタイン監督のロッテに苦杯を喫しました。特に、2005年はマリンスタジアムで試合中に霧が立ち込めて中断し、その影響もあってかあっという間の開幕4連敗でした。

さて、2024年は感染症診療にとって大事な年になりますが、昨年のアレと、アレのアレに続いて球団史上初のアレンバを狙う阪神タイガースにとっても大切な年です。2023年は普通のことを普通にやって勝ち進みましたが、2024年は全体のレベルアップによる常勝軍団の育成がテーマです。阪神タイガースが勝たなければ世の中が暗くなるので、世界に与えられた使命と思って頑張ってほしいと思います。2023年はトラ年でしたが、今年もトラ年になればと思っているのは皆さんと同じです。



病院長
馬場 勝義

あけましておめでとうございます。

新年を迎える皆さんは、今年にどんな夢を託しましたでしょうか。昨年5月よりコロナ感染症が5類感染症となり、インフルエンザも流行する中、我々は感染症とともに生きる時代に入っています。

さて地球環境に目を向けてみると、1961年ロシアのガガーリンが「地球は青かった」と語ったブルーに輝くこの星は重大な危機に直面しています。「観測史上最も暑い」昨夏はこのフレーズを何度も耳にしました。海の異変も心配です。サンマやイカ

は海水温上昇で不漁が続いている。海外の災害は目を覆うばかりで、カナダ、ギリシャ、ハワイの山火事、パキスタン、リビアでは大洪水。国連事務総長が語った「地球沸騰」による異常気象は日常化してきている。地球温暖化対策を話し合うCOP28では、またまた温室効果ガスの排出量をめぐって各国の利害が対立。美しい地球の姿を未来につなぐための時間はそう多くない。

新年早々暗い話になってしまったが、やはりスポーツは素晴らしい。昨年のワールドベースボールの世界一、ワールドカップラグビー、そして阪神タイガースの日本一。岡田監督の「あれ」が流行語大賞に！

今年も吉田病院は心ある医療を目指し、良質の医療を提供し地域に選ばれる病院になるべく地道な歩みをこれからも続けます。幸い、昨年4月に米国留学を含む旭川医大での研修を終えて、前理事長の遺伝子を持つ吉田遼平先生が赴任されました。これから吉田病院を背負って立つ遼平先生に大いに期待するところです。今年は辰年。龍のように飛龍できる1年でありますように、今年もよろしくお願いします。

慶友会

臨床研究センター

開設に向けた取り組み



呼吸器内科
吉田 遼平先生

今回、院内誌「すこやか」へ寄稿する機会をいただきました。折角の機会ですので現在進行中の臨床研究センターの構想について説明する機会とさせていただきます。

2001年
慶應義塾湘南藤沢高等部 卒業
慶應義塾大学理工学部電子工学科から
日本大学医学部 入学
2011年
日本大学医学部附属板橋病院
臨床研修医 勤務
2013年
旭川医科大学呼吸器センター 医員
2018年
ハーバード大学
ダナ・ファーバー癌研究所
(David A. Barbie lab) 留学
2021年
旭川医科大学病院呼吸器センター
2023年
医療法人社団慶友会吉田病院医師 勤務
旭川医科大学病院客員助教兼任

認定資格
・日本呼吸器学会専門医
・日本内科学会 認定内科医

加入学会
・日本呼吸器学会
・日本呼吸器内視鏡学会
・日本肺癌学会
・日本人間ドック学会
・米国癌学会
・日本がん分子標的治療学会

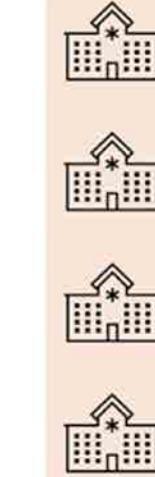
成果はどうなの？

一つ目のプロジェクトは昨年、論文 (Shigaki et al., Front Oncol. 2023 Nov 16;13:1269991.) を報告し、今後はオール北海道の肺癌研究グループ (HOT) での臨床研究の開始を予定しています。二つ目のプロジェクトは旭川医大の他、がん研有明病院、札幌東徳洲会病院と密に連携しながらマウスなどの動物実験なども併せて研究を進めているところです（図）。

その他にも、当院でのコロナ感染の実態を後ろ向きに解析したりしています。これからはもっと多岐にわたって慶友会の存在を発信していきたいと考えています。

研究機関との連携

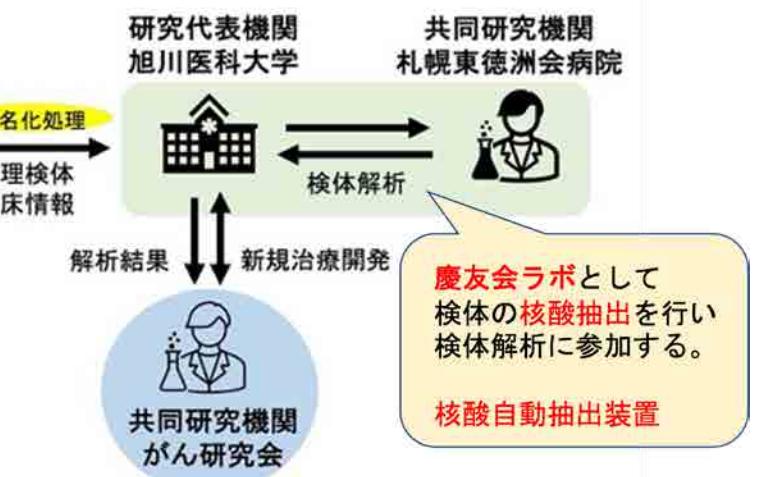
共同研究機関



研究代表機関
旭川医科大学

共同研究機関
札幌東徳洲会病院

共同研究機関
がん研究会



なぜ臨床研究センターをつくるのか？

慶友会は予防医療から始まる42年の歴史ある機関です。開設当初は前理事長が掲げた予防医療の概念は新しいものでした。しかし、次の時代を乗り越えるためには新たな核が求められます。先の見えない保健医療にただ追従するのではなく、自分たちの力で新たな種を蒔き地域医療を先導していきたい、その新たな種をみつけるための機関として臨床研究センターを位置付けています。端的にまとめると、「慶友会の新たな価値の創造」ということになります。

実際に進めるプロジェクトはなに？

現在、旭川医大と連携しながら二つのプロジェクトを進行中です。どちらも肺癌研究ですが、一つ目のプロジェクト (N-STOP 試験) はがんを血液から診断する研究です。この概念自体にはそれほど新規性はありませんが、この研究で分子標的薬と呼ばれる内服の抗がん剤の副作用のモニタリングや有効な患者さんを選別するための指標に使えないかと考えています。二つ目 (DISCOVER-K 試験) は肺癌の免疫の薬の有効性を治療前から評価する研究です。これが可能になれば患者さんに不必要的抗がん剤の投与を回避し、医療費抑制にもつながります。

最後に

留学先の David A. Barbie 博士（写真）から教わったことの中に、「Make your story」という言葉があります。当初、科学の世界において物語を作れというのは不思議な印象を受けましたが、今はその言葉の真意を理解するようになりました。日本人は誠実に働くことには長けていて、それは留学先でも日本人固有の美德として重宝されました。しかし、自分たちで仮説を立てて新たなものを作っていく力は弱い、そこに気付かされた気がします。現在は自分たちから真に意義のあることを立ち上げたいと考えるようになったきっかけです。

今後も臨床研究センターから発表する面白いこばれ話を、この「すこやか」で発表させていただけたら嬉しいです。





Q 吉田病院の仕事には慣れましたか？
カストルさん 私も介護の仕事を初めてでまだ勉強中なのですが、慣れてきました。ビザが切れてしまふ最後まで頑張ります。

Q 旭川で暮らしてみてどうですか？
カストルさん 少し慣れましたが、冬が初めてなのでどのくらい寒くなるのか分からないです。
メンデズさん こちらに来てまだ三ヶ月ですが、少し慣れました。住みやすく生活もできています。



Q 日々の疲れ解消で行っていることはありますか？
カストルさん あとは、美味しいラーメン屋さんを探しに探検に行くこともあります。フィリピンでは、気候が暖かいので熱々のラーメンを食べることがあまりなかったので…。

Challenge! 脳トレーニング

問題1

▷ リストの漢字をあてはめて、四字熟語を完成させましょう。



問題2

▷ 隠れている四字熟語を答えましょう。

①



②

